

三角島の乱に関わる史料の紹介

梅野 敏明

はじめに

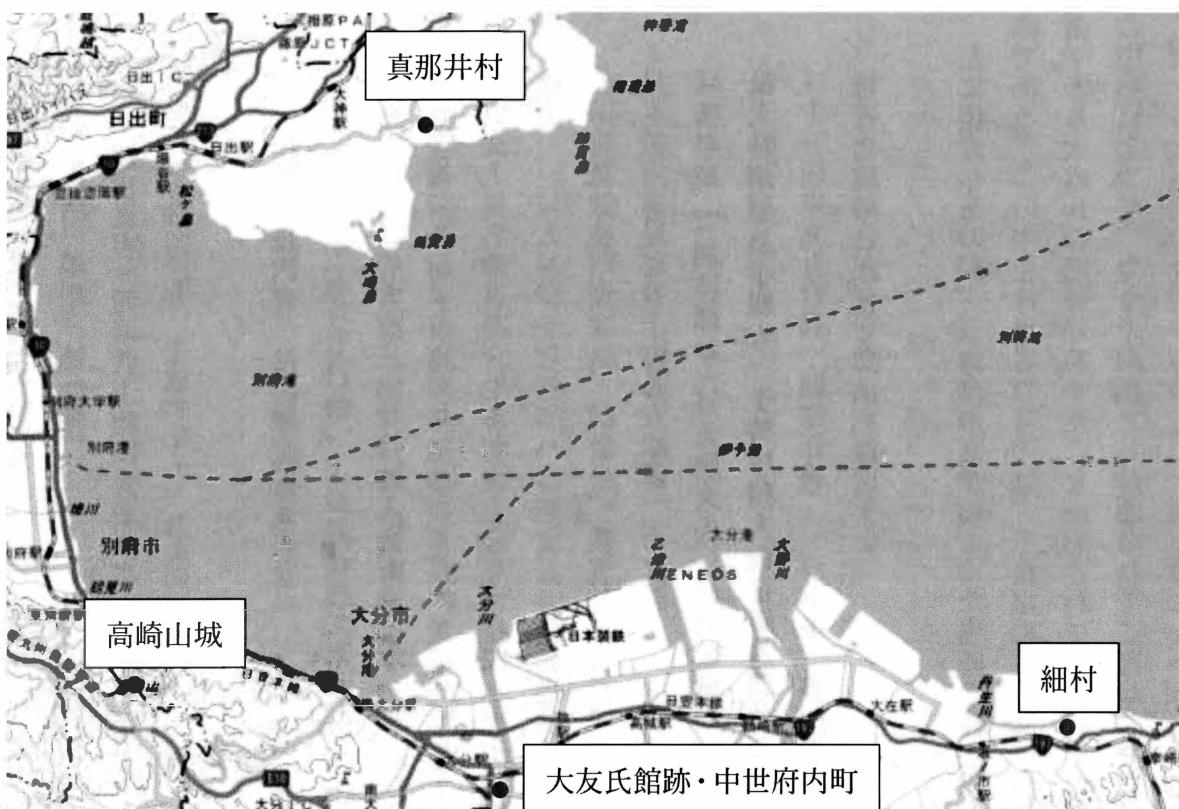
三角島の乱は応永三二年（一四二五）に大友孝親（大友家第十一代当主の親著の嫡男）が起こした反乱であり、この三角島の乱に関しては過去の挾間史談会の例会において数々の議論を展開してきたテーマである。

今回、紹介する史料は、筆者が別件の調査で日出町真那井に本拠地を構えた渡辺氏の史料の中からたまたま見つけたものである。短い記述ではあるものの三角島の乱に関わる重要な記録であると思つたため、この紙面をお借りして紹介したい。

一、真那井渡辺氏について

史料を紹介する前に、真那井の渡辺氏について簡単に解説したい。渡辺氏は摂津国渡辺津（現在の大阪府大阪市天満橋付近）を本拠地とする豪族で、その祖は渡辺綱とされている。渡辺綱は源頼光に仕え、坂田金時らとともに頼光四天王と讃えられた。渡辺綱は優れた武勇をもつて頼光を支えて続けており、その武勇は後に大江山の酒呑童子退治などの伝説を生んだ。

摂津渡辺氏の大きな特徴としては、渡辺氏の男子が当時としては珍しい一字だけの名前と優れた航海術と水軍としての能力を持つていたことであった。



地図：真那井渡辺氏の主な所領(国土院地図 HP より一部加工して転載)

渡辺氏が豊後国に下向してきたのは南北朝時代の終わりごろであり、室町幕府の九州平定戦に従つて来たのであつた。系図によつて九州移住に関する記録は異なつており、九州探題の今川了俊に従つて九州に来たとする説と大友氏が九州に戻る際に一緒に付いてきたとする説が伝わつてゐる。豊後国に下向した渡辺氏は大友氏から速見郡真那井（現在の大分県速見郡日出町大字真那井）と海部郡細村（現在の大分市大在・坂ノ市地区）を与えられた。渡辺氏は別府湾の入り口にあたるこれからの地域を本拠地として、大友氏直属の水軍である真那井衆として活躍した。

二、真那井渡辺氏の系図に記された三角畠の乱の情報

前述のように、真那井に住む渡辺氏一族が移住してきたのは室町時代に入つてからであり、それまでは大友氏庶子家である戸次一族が地頭として支配していた。時代が下るにつれて、次第に大友総領家の真那井村に対する影響力が増していき、室町時代に入る頃には真那井村の支配権が戸次一族から大友総領家へ移つたものと思われる。その上で、大友氏は摂津国から渡辺氏を招き真那井村を与え、大友氏直属の水軍「真那井衆」を結成させたのである。

このような歴史をたどつた真那井渡辺家に関する史料は現在でも残つており、芥川龍男氏や福川一徳氏によつて写真付きの史料集として世に出てゐる。これから、その両者が編さんした渡辺文書の史料集の中からに三角畠の乱の史料を紹介したい。

【史料】渡辺氏系図・渡辺信の項

○芥川龍男・福川一徳（編）

『渡辺文書（西国武士団関係史料集一五）』一五ページ

（文献出版、平成六年（一九九四））

信 松若 長門守 母岐部左近太夫女

応永二十一年五月七日依 上意被没収所帶是「因訴不糺因也」
其来由長門守於豊府三田井丹波入道有訴論事仍被「因云々」木付
讃岐守親公為討手寄真那井無謂討平長門館依之」従士小川ト云
者出庭上我名乘長門守生害館炎上云々」長門ハ従士長野ト主従
而入一戸城大神伊予守親増ハ謂冠父云」備頭潛藏長門而後偏ニ
於国府悲歎長門没家仍 御家形」親世公再召長門同二十四年三
月本領内速見郡五十町賜安堵御」下文訖

其後孝親【割注部分】号大膳大夫、親著公御嫡】依叛逆有動
乱大神親増為孝親方 干時中国大内徳雄為親著公加勢越国同
三十三丙申九九日貴「圍深江城 一戸トモ 長門於防口戦死」
号安功院殿長州太守勲山利徵居士」

左に紹介したのが、三角畠の乱がおこつた当時の渡辺家当主の系譜である。この中で注目されるのは、三角畠の乱に周防国の守護である大内氏の関与があつたことが記されていることである。この史料によつて、今まで漠然としか語られてこなかつた三角畠の乱に対する大内氏の介入があつたことが明確になつたのである。